

相談交流活動部門

- 1 相談・交流部門の人員体制
- 2 相談指導業務
 - 1) 相談の場所と時間帯
 - 2) 留学生の身分別相談状況
 - 3) 内容別相談概況
 - ① ビザ・在留の相談
 - ② 奨学金・授業料の相談
 - ③ 事件事故に関する相談
 - ④ 生活一般の相談
 - ⑤ サークル交流活動に関する相談
 - ⑥ 入学進学に関する相談
 - ⑦ 研究学習に関する相談
 - ⑧ 就職アルバイトに関する相談
 - ⑨ 日本人学生への相談業務／海外留学
 - ⑩ 教員への相談業務
 - ⑪ 海外からの入学希望者への相談
 - ⑫ 地域関係機関・個人への相談業務
 - 4) 留学生の就職支援活動
 - ① 支援の概要
 - ② 支援の流れ
 - ③ 就職実績
 - ④ 今後の課題
- 3 交流活動
 - 1) 学内交流活動
 - ① 国際交流ラウンジ
 - ② ビデオショウ
 - ③ 国際交流キャンプ
 - ④ 留学生研修旅行

- ⑤ スキー旅行
- ⑥ 全学オリエンテーション
- ⑦ 留学生と教職員との交歓会
- ⑧ チューター制度
- ⑨ 留学生センターラウンジの役割

2) 地域交流活動

- ① 小中学校総合学習等支援のための留学生派遣
- ② 留学生派遣の流れ
- ③ 派遣における問題点
- ④ 通訳・語学講師派遣
- ⑤ 就職関連での経済界との交流
- ⑥ 地域ボランティアグループとの交流
- ⑦ スマトラ沖津波被災者支援活動

4 地域・国際交流ネットワーク構築と留学生同窓会活動

- ① 福井大学留学生同窓会設立の背景
- ② 同窓会設立大会
- ③ 各国支部の設立
- ④ ネットワーク誌「こころねっと」発刊
- ⑤ 住所、e-mail アドレス等の情報網構築

5 外部情報発信活動

1 相談・交流部門の人員体制

福井大学留学生センターには教員が5名いて、日本語・日本事情教育部門に4名、相談交流部門に1名配置されている。他方、留学生課は課長を含め職員4名で、内1名が生活指導を担当している。留学生課には主に事務手続き関係の質問が行き、相談交流担当教員の方には、腰を据えての相談にやってくる。無論、相談交流担当教員だけでなく、センター教員5名全員が留学生の相談に応じるが、学期開始時に実施する全学留学生向けオリエンテーションで相談交流担当教員が相談交流業務について詳しく説明するので、留学生たちは必然的に教員の役割分担を認識する。

2 相談指導業務

1) 相談の場所と時間帯

いわゆる相談専用室はなく担当教員の研究室で相談を受ける。研究室には5人用のソファセットがあり、寛いだ雰囲気を提供できる環境である。相談時間帯は留学生センターホームページ (<http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>) に 下記の通り掲載されているが、研究室ドアには「いつでもどうぞお入りください。不在の場合のメモは上の籠かごにいれてください」との掲示があり、籠が用意されている。従って、下記時間帯でも、授業中でない限り相談を受けつける。

曜日	午前	午後
月		14:00 ~ 17:00
火	9:00 ~ 12:00	
水		14:00 ~ 15:30
木	9:00 ~ 12:00	
金	9:00 ~ 12:00	

2) 留学生の身分別相談状況

相談担当教員の研究室においては、担当教員着任（平成12年8月）以降、平成17年3月までの4年8ヶ月間に留学生対象の相談が1,137件、留学生以外の相談は193

相談交流活動部門

件、合計 1,330 件が記録されている。着任日からの全データを記録してあるが、多少漏れもあるので、実数はその約 1 割増しぐらいかと思われる。平成 12 年度は年度途中からであり、且つ、担当者の知名度が低いこともあり、相談件数は 55 件であったが、その後は 265 件、278 件、288 件、251 件であり、毎年 250 件以上となっている。平成 12 年度～16 年度の総合計、平成 15 年度及び平成 16 年度における学生の身分別相談状況は下記表 1～表 3 の通りである。尚、本報告においては、e-mail による相談はその集計数字に入っていない。

表 1 (平成 12 年度～平成 16 年度の身分別相談状況)

	教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女		
院生	36	64	379	107	415	171	586	52
学部学生	4	47	89	31	93	78	171	15
研究生	44	46	63	29	107	75	182	16
科目等履修生	17	27	74	80	91	107	198	17
小計	101	184	605	247	706	431	1137	100
総合計	285		852		1137			
%	25		75		100			

表 2 (平成 15 年度の身分別相談状況)

	教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女		
院生	8	17	73	50	81	67	148	51%
学部学生	0	21	18	13	18	34	52	18%
研究生	3	6	7	13	10	19	29	10%
科目等履修生	4	8	15	32	19	40	59	20%
小計	15	52	113	108	128	160	288	100%
総合計	67		221		288			
%	23%		77%		100%			

表3 （平成16年度の身分別相談状況）

	教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女		
院生	5	11	82	32	87	43	130	52%
学部学生	1	14	15	5	16	19	35	14%
研究生	11	14	16	0	27	14	41	16%
科目等履修生	1	7	17	20	18	27	45	18%
小計	18	46	130	57	148	103	251	100%
総合計	64		187		251			
%	25%		75%		100%			

表1～表3の身分別比率を見ると、その比率がほぼ重なっていることが分かる。つまり、院生の相談件数が51%～52%と最も多く、学部学生の場合は平成15年度こそ18%とやや多いが、平成16年度及び通年は15%以下で少ない。また、非正規生である研究生と科目等履修生においては、科目等履修生の相談件数が17%～20%と、研究生の10%～16%に比べて多い。学部別にみると、教育学部約25%、工学部約75%となっている。

他方、平成16年10月1日現在の留学生在学生数は下記の通りである。

表4 （平成16年10月1日現在の留学生身分別在学生数）

	教育地域科学部	医学部	工学部	合計	%
院生	11	4	89	104	45%
学部	8	1	46	55	24%
研究生	20	2	15	37	16%
科目等履修生	7	0	26	33	14%
合計	46	7	176	229	
%	20%	3%	77%		100%

同一年度の状況を示す、平成16年度の表3及び表4を比較して見ると、学生数が院生45%、学部生24%であるのに対して、相談件数はそれぞれ52%、14%となっていて、院生に比べて学部学生の相談件数が少ないことがわかる。これは、学部学生の日本社

会への適応力・語学力のせいであると思われる。と同時に、相談内容件数で一位を占める「就職・アルバイト」の相談が院生に集中していることにもよる。表3で研究生数16%、科目等履修生数14%と、人数は2%少ない科目等履修生が、相談件数において2%多いのは、科目等履修生の大半が英語を媒介語とする短期プログラム参加の交換留学生であり、いろんな問題を抱えているからであると思われる。研究生は指導教員の研究室で、指導教員および院生たちに随時支援を受けられる環境にあるのに対し、科目等履修生にはそのような環境がないことも原因である。学部別に見ると、学生数がほぼ相談件数に反映されているが、教育学部の学生の方がその数に比べて相談件数が多くなっている。これは、工学部の学生が実験等で忙しく、なかなか相談にくる時間がないことが一因かもしれない。

尚、平成15年10月に福井大学と福井医科大学が統合したが、医学部の留学生数自体が少ないこと、それに両キャンパスが離れていることから平成16年度までは医学部留学生の相談はなかった。

3) 内容別相談概況

平成12年度～16年度の総合計、平成15年度及び平成16年度における留学生の内容別相談状況は下記表5～表7の通りである。まず、就職アルバイト、研究学習、入学進学が相談の70%近くを占めていることが分かる。ビザ・在留、奨学金授業料は5%以下であり、事件・事故、生活一般の相談も10%以下となっている。また、交流活動の増加に伴い、その相談件数も最近は増えている。

表5 (平成12年度～平成16年度の内容別相談状況)

	教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女		
研究学習	28	38	117	49	145	87	232	20
就職アルバイト	35	63	205	47	240	110	350	31
奨学金授業料	1	14	26	5	27	19	46	4
生活一般	16	21	50	28	66	49	115	10
入学進学	9	18	115	71	124	89	213	19

福井大学留学生センター紀要第1号（創刊号）

サークル・交流活動	11	26	51	26	62	52	114	10
ビザ・在留	0	1	25	3	25	4	29	3
事件事故	2	2	15	19	17	21	38	3
小計	102	183	604	248	706	431	1137	100
総合計	285		852		1137			
%	25		75		100			

表6 （平成15年度の内容別相談状況）

	教育地域科学部		工学部		合計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女		
研究学習	3	7	24	17	27	24	51	18%
就職アルバイト	7	21	30	24	37	45	82	28%
奨学金授業料	0	2	1	2	1	4	5	2%
生活一般	0	0	5	12	5	12	17	6%
入学進学	2	8	19	25	21	33	54	19%
サークル・交流活動	3	11	21	11	24	22	46	16%
ビザ・在留	0	1	6	2	6	3	9	3%
事件事故	1	1	6	16	7	17	24	8%
小計	16	51	112	109	128	160	288	100%
総合計	67		221		288			
%	23%		77%		100%			

表7 （平成16年度の内容別相談状況）

	教育地域科学部		工学部		小計		総合計	%
	男	女	男	女	男	女		
研究学習	7	14	28	12	35	26	61	24%
就職アルバイト	3	13	26	8	29	21	50	20%
奨学金授業料		10	2	1	2	11	13	5%
生活一般	4	6	11	2	15	8	23	9%

相談交流活動部門

入学進学			30	23	30	23	53	21%
サークル・交流活動	4	2	16	7	20	9	29	12%
ビザ・在留			10	1	10	1	11	4%
事件事故		1	7	3	7	4	11	4%
小計	18	46	130	57	148	103	251	100%
総合計	64		187		251			
%	25%		75%		100%			

① ビザ・在留の相談

相談件数が少ないのは、ビザ取得・更新手続きに関しては留学生課が中心に処理して、留学生課段階で解決されているからだと思われる。ビザ・在留で相談に来るのは、家族ビザで家族が来訪するときの、書類不備や書類送付手続き不備などによる問題の解決や、出入国管理局への問い合わせ依頼などである。

② 奨学金・授業料の相談

相談件数が少ないのは、まず奨学金案件そのものが少ないこと、授業料免除は学生課が窓口であるためこちらでは学生課への問い合わせに終わることによると思われる。尚、授業料免除において、未解決の大きな問題点は、民間の奨学金をもらう学生が、奨学金の総額が年収制限にひっかかり、授業料免除要件から外れることである。つまり、折角の民間奨学金の善意が授業料免除不可という結果となり、その趣旨が生かされないことである。

③ 事件事故に関する相談

その相談件数こそ少ないが、1ヶ月以上の入院を伴う交通事故が平成15年度、及び16年度にそれぞれ1件あった。特に平成15年度の交通事故の場合、アルバイト帰りの早朝雨の中で傘を差して自転車走行中の留学生が交差点で跳ねられ1ヶ月入院したが、担当教員、職員、指導教員全員にとってこのようなケースの交通事故処理が初めての経験だったため、時間を費やした。自動車同士であれば、双方の保険会社間で処理するので、当事者同士は処理対応では部外者みたいなものだが、自転車事故ではその構図が働かない。幸いにも、途中から大学に出入りしている保険会社員が協力してくれたので、スムーズに解決することができた。それでも、同氏を交えて関係者会議を10回以上開き、アルバイト先、加害者加入保

険会社、入院先病院等への対応や、治療代、慰謝料、労災手続きなどについて打ち合せた。16年度の事故は暗がりの踏み切りで停車中の自転車に追突された事故で、加害者が任意保険に加入していないという最悪の事故であったが、前年度の経験があったので、冷静に且つ着実に解決の歩を進めることができた。平成16年度はこの他に、積雪路上を自転車走行中に転倒骨折し、2ヶ月入院する留学生が出たが、関西地区から親戚が駆けつけ看病してくれたので、助かった。

④ 生活一般の相談

生活一般では、寮やアパートでの生活に関する相談が多い。国際交流宿舎（寮）の自治会の会議・活動が多すぎて悩んでいるとか、同じ寮の日本人学生に馬鹿にされたとか、日本人学生が飲酒等で騒ぎうるさいとか、の相談が多い。寮の日本人学生及び留学生双方へのアンケートによると、混住寮を積極的に評価している意見と、不満を持っている意見が半々であった。日本人学生から見た場合には、留学生が自治会の趣旨を理解してくれずいろんな活動に参加してくれないという不満が一番多く、留学生から見た場合には自分たちを子ども扱いするという不満が大きい。国際交流宿舎は209室あり、日本人学生定員174名、留学生35名となっているが、留学生入居者には院生を中心に25歳前後が多く、20歳前後の日本人学生が自分たちを年長者として対応しないという不満がある。他方、国際交流宿舎に隣接する留学生会館は単身用25室、夫婦及び家族用がそれぞれ2室、計29室あり、留学生のみが居住しているが、留学生課職員が物心両面で対応しているので、相談担当教員への相談案件はほとんどない。アパートの場合、大家さんからの苦情が持ち込まれたことはないが、同一アパートに居住する留学生同士の問題、例えば騒音問題などが持ち込まれることがある。アパート等に関して付言すれば、アパート探しそのものは指導教員が担当してくれるので問題ないが、賃貸契約における保証人に関する相談がある。保証人には指導教員がなるという共通認識になっているが、課税証明書・印鑑証明書提出を伴うため、JASSO留学生住宅総合補償保険に加入したとしても躊躇する指導教員がいる。そんな場合、相談担当教員が保証人になっている。現在、機関保証の方向で検討している。また、最近国際テロ多発に影響されてか、留学生が路上で警察から職務質問を受けることが時折あり、当惑する留学生からの相談も多い。職務質問の背景を説明すると共に、そのような場合には直ちに相談担当教員に連絡を取るよう指示している。

⑤ **サークル交流活動に関する相談**

留学生の地域理解や親日感は、パーティ等に招待されることからではなく、地域の国際化への積極的貢献から生まれるとの認識から、小中学校や県内機関に留学生を講師として積極的に派遣している。平成 15 年度は 46 件、平成 16 年度は 68 件それぞれ派遣した。相談としては、小学校等での発表方法や、準備内容等に関するものが多い。また、留学生の中には、合気道部、バスケットボール部、茶道部などに入部する学生も徐々に増えているが、どんな部に入部したらいいかなどの相談がある。

⑥ **入学進学に関する相談**

このカテゴリーの相談には、学内進学、学外進学、更には第三国への進学相談があり、特に最近は第三国への進学相談が増えている。学内進学の場合、適当な指導教員を探してほしい、大学院受験に失敗したので新しい指導教員を紹介してほしい、研究生として 1 年過ごし確実に進学できると思っていたのに不合格になった、などと相談に来る。学外進学、及び第三国への進学の場合は奨学金等情報提供と推薦状作成依頼がほとんどである。

⑦ **研究学習に関する相談**

研究学習に関する相談は大学院生からの相談がほとんどで、研究室内の人間関係、研究テーマそのもの、学位論文執筆の壁、などがある。国際総合コース学生等、英語で直接指導を受ける留学生が急増する中で、日本人学生の英語力が追いつかず研究室内の疎外感を味わう学生が多い。また、直接大学院に入学する学生の場合、来日後研究テーマ、研究室変更の相談に来る学生がいる。その背景には研究室内の雰囲気の影響していることもある。このような場合には指導教員、学部長等と直接協議して対応している。修士論文で悩んで相談に来る学生は皆無に近いが、博士論文の場合にはかなりの学生がノイローゼ気味になる。査読の結果が届かない、規定の論文数になっているのに指導教員が予備審査を開いてくれない、今のテーマでは論文が書けない、などである。このような場合には黙って悩みを聞いてあげると同時に、必要に応じて指導教員と協議している。

⑧ **就職アルバイトに関する相談**

就職したい、企業を紹介してほしい、履歴書の書き方がわからない、自己PR文をチェックしてほしい、就業ビザが取れない、給与について会社に問い合わせ

もいいのか、将来日本から中国に転勤転籍したら給料はどうなるのか、内定通知を複数もらったけどどこがいいか、等々の就職相談が相談件数のトップである。しかも、来訪するのは院生がほとんどである。福井商工会議所、ジェトロ福井事務所、福井労働局、入管との連携、特に産業界とのネットワーク構築を通して、就職支援を展開しているが、平成15年度16名（内県内9名）、平成16年度23名（内県内9名）がそれぞれ国内企業に就職した。その詳細については後述する。

⑨ 日本人学生への相談業務／海外留学

元来、相談担当教員の意識として、業務の対象は留学生という意識があったため、留学生以外の相談案件は十分な記録がない。それでも、2002年度35件、2003年度86件、2004年度71件の記録が残されている。ただ、その内、日本人学生の相談記録は16件に過ぎない。主に海外留学に関する内容である。平成16年度においては日本人学生の海外留学を推進するために、留学生センターにおいて新たに海外留学推進の担当教員を別途配置した。ただ、配置教員の健康上の問題等から十分軌道に乗っているとは言えない。

⑩ 教員への相談業務

教員からの相談として多いのは、新しい留学生を研究室に受け入れた指導教員からのもので、「日本語力が弱いので、修了まで指導できるか不安」というものが多い。こちらからは来日直後は精神的な不安等でコミュニケーションに問題があっても、やがて授業等に十分ついていけるので心配しないでほしいとアドバイスしている。そして、実際にそうになっている。

⑪ 海外からの入学希望者への相談

本学修士、博士課程への入学希望者から、メールによる問い合わせがかなり入る。主に、指導教員を紹介してほしいというものである。その場合には、当該学科の留学生委員会委員に情報を転送し、学科内全教員に受入意思を確認するように依頼している。国際総合特別コース博士課程の場合、毎年このような形で2、3名を受け入れてもらっている。

⑫ 地域関係機関・個人への相談業務

県内国際交流関係機関からの活動企画、受入計画等についても随時相談を受けていて、年間50件ほどになる。

4) 留学生の就職支援活動

① 支援の概要

本学は理念の中核に「地域、国及び国際社会に貢献し得る人材の育成」を掲げている。そして、留学生センターは大学の国際化だけでなく、地域の社会、経済の国際化を推進する核となることが期待されている。そこで、福井商工会議所、ジェトロ福井事務所、福井国際交流会館、県及び市と連携しながら、留学生の国内就職、特に県内就職を推進している。相談担当教員の着任以降、平成13年度8名（内県内4名）から平成16年度23名（同9名）まで、計53名（県内23名）が就職したが、この就職支援相談業務において一番大切なのは、産業界、福井労働局、入管との連携、特に産業界とのネットワーク構築である。平成13年度及び14年度に福井商工会議所と協力して「県内企業と留学生の懇談会」を実施し、まず留学生採用に興味ある県内企業50社のリストを作成した。同時に、福井大学に就職希望の留学生がいること、留学生センターが留学生の就職を推進していることを認識してもらった。これで軌道に乗り始め、その後、県内企業100社のリストが完成した。

② 支援の流れ

3月中旬

留学生向け就職説明会実施

内容 : 過去の就職・内定状況について

: これからの就職活動と相談について

(就職ナビ登録、インターネット検索、会社説明会、履歴書作成法、自己PR書の書き方、内定後の注意事項等)

: 各種資料配布

「就職活動の手引き 2005年」福井大学作成

「日本で働こうとする外国人のみなさんへ」(英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語版) 厚生労働省作成

「ふくい企業ガイドブック 2005年」福井労働局作成

: 先輩の就職活動体験談

: 就職希望者リスト登録

4月

福井大学就職希望留学生一覧作成

8月

福井大学就職希望者一覧 県内100社に送付

以降随時

求人票をe-mail配信、会社説明会設定、個別相談

③ 就職実績

就職実績は下記の通りであるが、表にあるとおり、センターでは卒業済留学生、卒業後他大学進学 of 学生も含め就職支援を行っている。教育学部の学生は通訳、翻訳、中国出先との連絡調整、工学部の学生は開発、研究等が主な業務内容である。

表8 平成15年度留学生国内就職実績（就職先内定順）

会社	出身所属	国籍	会社所在地
A	工学研究科	ホンジュラス	福井市
B	元教育地域科学部	中国	福井県金津町
C	教育地域科学部	中国	富山市
D	工学研究科	中国	奈良市
E	工学部	中国	愛知県江南市
F	工学研究科	中国	名古屋市
G	工学部	マレーシア	武生市
H	教育研究科	中国	福井市
I	工学研究科	中国	福井県金津町
J	教育研究科	中国	鯖江市
K	工学研究科	台湾	東京都渋谷区
L	工学研究科卒	中国	福井県金津町

相談交流活動部門

M	工学研究科卒	中国	和歌山市
N	工学部(後県立大院)	中国	福井県金津町
O	教育地域科学部	中国	福井県丸岡町
P	工学研究科	インド	東京

表9 平成16年度留学生国内就職実績(就職先内定順)

会社	出身学科	国籍	会社所在地
A	工学研究科	中国	福井県春江町
B	工学部	中国	福井県金津町
C	工学研究科	中国	安城市
D	教育学研究科	中国	大阪府大東市
E	元教育地域科学部	中国	大阪市
F	工学研究科	中国	奈良市
G	工学研究科	中国	福井市
H	工学研究科	中国	名古屋市
I	工学研究科	中国	滋賀県草津市
J	工学部電気電子工学科	フィリピン	東京都
K	工学研究科	中国	名古屋市
L	工学研究科	中国	川崎市麻生区
M	工学研究科	中国	川崎市
N	教育地域科学部	中国	福井市
O	工学研究科	中国	福井市
P	教育地域科学部	中国	福井市
Q	工学研究科	中国	大阪市
R	工学研究科	中国	名古屋市
S	工学研究科	中国	大野市
T	工学研究科	中国	名古屋市
U	教育地域科学部	中国	鯖江市
V	教育学研究科	中国	福井市

W	工学研究科	中国	春日井市
---	-------	----	------

④ 今後の課題

就職支援の一番のポイントは求人会社の確保である。平成13年度及び14年度に福井商工会議所と協力して実施した「県内企業と留学生の懇談会」を再度実施するとともに、県内企業団体との連携を深める必要がある。また、就職後熱意をもって仕事を継続できるように、働くことの意義、動機付け教育を推進したいと思っている。事務的手続きの指導だけでなく、動機付けに関する講義が後日感謝されることが多い。また、現在構築しつつある同窓会支部網を通して、今後は母国企業への就職支援へと活動を広めていきたい。

3 交流活動

1) 学内交流活動

留学生相互及び日本人学生との交流を図るために、福井大学留学生会が組織されており、留学生会主催の行事として、国際交流ラウンジ、ビデオショー、国際交流キャンプ、スポーツ大会などが実施されている。

① 国際交流ラウンジ

表10の案内のような形で、学期期間中毎月2回実施される。平成15年度は10回、平成16年度は11回行われた。原則自由会話であるが、毎回話題を設定し、その話題に関するアンケートをその場で行い、会話のスムーズな展開を図る。この国際交流ラウンジの場合は、福井大学生協の学生組織であるSOSEN部が事務局として、毎回のアンケートの作成・実施、会場の準備、後片付け等で積極的に協力してくれる。

最初の30分は英語で、次の30分は日本語で会話を展開するので、語学力向上を目指して参加する学生が多い。この活動の中から、交流を深め、中国への短期留学を果たした者が3名生まれた。毎回、終了時に全員で記念写真を撮って終えることにしている。そして、10枚程度の各場面写真を含め、掲示板に掲示して、希望者に配布している。過去4年間継続実施しているが、当初ポケットマネーで用意していたお茶菓子代は3年目から福井大学生協が原物提供してくれている。尚、

この案内は毎回数日前に留学生全員及び日本人学生（約 200 名）に英和文併記で e-mail 配信される。

表 10 国際交流라운ジの案内文

留学生及び日本人学生の皆さん	
下記の通りお話し会「国際交流라운ジ (International Friendship Lounge)」を行います。	
お誘い合わせの上、ご参加ください。	
日時	12月7日(水曜日) 18:00-19:00 (毎月第一及び第三水曜日 18:00-19:00 開催)
場所	留学生センター ラウンジ
参加者	留学生及び日本人学生 (毎回各 15 名、計 30 名ぐらい参加)
内容	前半 30 分英語、後半 30 分は日本語によるグループ自由会話 (飲み物、スナック付)
話題	雪
参加費	無料
主催	福井大学生協 SOSEN 部 福井大学留学生会

② ビデオショウ

前述の「国際交流라운ジ」が第 1、第 3 水曜日に実施されるのに対して「ビデオショウ」は第 2、第 4 水曜日に表 11 のような案内を通して福井大学留学生会主催で実施される。E-mail による希望調査により、外国映画、日本映画を交互に放映することになっている。

平成 15 年度は 12 回、平成 16 年度は 11 回実施された。映画鑑賞を通して、その前後にコーヒー、お茶菓子を味わいながら留学生相互、及び日本人学生と交流をしている。

表 11 ビデオショウ案内文

Dear Friends,
(Both Overseas and Japanese Students)
I am pleased to inform you that we are going to have a Video Show as hereunder. You are cordially invited to the program.
Title Hero (英雄)
A Chinese movie
Date January 26 (Wednesday) 18:00-20:30
Place Lounge, International Student Center
Fee Free (with Coffee and Snacks)
Marcio Inoue
Secretary, University of Fukui International Student Association
ufasjp@yahoo.co.jp

③ 国際交流キャンプ

日本人学生、留学生の相互交流を図るため、工学部育成会から支援をいただき、学生参加費 3000 円で毎年 1 泊 2 日のキャンプを実施している。

午前中は越前海岸で水泳を楽しみ、午後国見岳キャンプ場に移動し、バーベキューの後、各国の歌、踊り、ゲームなどを楽しむ。国見岳キャンプ場は 10 名定員のバンガローが廉価で 10 棟以上あり、広い芝生もあって、キャンプに最適である。平成 13 年から 15 年まで、29 名（留学生 12、日本人学生 16、引率 1）、41 名（留学生 28 名、日本人学生 12 名、引率 1）、26 名（留学生 16、日本人学生 9、引率 1）の参加で実施したが、平成 16 年度は予算が得られず実施できなかった。海岸でのスイカ割り、水球、初めて見る海など、留学生にとって思い出深い行事であるので、今後は何とか継続したい。

④ 留学生研修旅行

留学生の見聞を深めると同時に、留学生相互及び教職員との交流を図るため、夏期及び春期に研修旅行を実施している。平成 15 年度、及び 16 年度は表 12 の通り

実施した。

表 12 留学生研修旅行実績

平成 15 年度		
夏	平成 15 年 8 月 5 日～6 日	
	奈良法隆寺と伊賀忍者の里	
	留学生：37名	教員：2名 職員：2名
春	平成 16 年 2 月 17 日～2 月 18 日	
	金刀比羅山・松山城と道後温泉	
	留学生：60名	教員：2名 職員：2名
平成 16 年度		
夏	平成 16 年 9 月 2 日～9 月 3 日	
	京都・ユニバーサルスタジオジャパン	
	留学生：41名	教員：2名 職員：2名
春	平成 17 年 2 月 21 日～22 日	
	沖縄	
	留学生：37名	教員：3名 職員：1名

⑤ スキー旅行

留学生相互の交流と、スキー体験のために平成 14 年までは毎年本学六呂師山荘に宿泊して、1泊2日のスキー旅行を毎実施していたが、予算の関係で平成 15 年度と 16 年度は実施しなかった。それを補うため、平成 15 年度以降は、相談交流担当者が自家用車で毎年 7, 8 回、4, 5 名ずつ日帰りスキーに引率している。幸い本学では学生課に、貸出用靴が 173 セット、スキー板が 88 セットあり、無料貸出をしているので、私費学生でも十分にスキー旅行を楽しむ余裕がある。できれば、スキー旅行の復活を図りたい。

⑥ 全学オリエンテーション

学期初めに、新入及び在学留学生全員を対象に大教室でオリエンテーションを実

施している。教職員紹介、新入生全員の自己紹介、日本語クラスや生活上の注意事項等を説明するが、オリエンテーション終了後、ジュースとお茶菓子による簡単な茶話会を開催している。これは、新旧留学生の交流に役立っている。

⑦ 留学生と教職員との交歓会

毎年3月初旬、帰国予定の留学生の送別会を兼ねて、アカデミーホールや大学生協食堂を利用して、留学生及び教職員200名ほど参加する交歓会を実施している。学長の挨拶、留学生代表の挨拶、各国の歌や踊りなど出し物を鑑賞しながら、パーティ料理を用意して交流を行う。留学生は無料であるが、教職員からは会費を徴収する。そして、最後に全員で記念写真を撮り終える。

⑧ チューター制度

留学生の学習・研究指導、日本語指導、生活情報提供、諸手続きのための官公庁等への案内など、本学ではチューター制度が完備している。その実績は下記の表13の通りで、その活動状況は活動計画書、執務表の形で報告されている、留学生の研究、学習、生活及び日本人学生との交流において多大な役割を果たしている。

表13 教育地域科学部及び工学部におけるチューター活動実績

	チューター と留学生の ペア数	実施時間数	留学生一人 あたりの平 均実施時間 数	在籍留学生数
平成15年度前期	81	3160.0	39	204
平成15年度後期	41	1432.5	35	225
平成16年度前期	12	398.0	33	217
平成16年度後期	47	2700.0	57	222

⑨ 留学生センターラウンジの役割

留学生センターには相談担当教員研究室に隣接して、留学生向けのラウンジがある。コンピュータ6台、プリンター1台が設置され、留学生が学習、研究、母国との連絡等に利用している。ラウンジには衛星放送受信可能なテレビ、ビデオの他、円テーブル2脚、テーブル用椅子10脚があり、留学生が集い、語り合う場

所として利用されている。また、国際交流ラウンジ、ビデオショー、各種パーティの会場としても使われるため、テーブル用椅子の他に、折り畳み式椅子 40 脚も用意してある。

更に、ラウンジには留学生貸し出し用図書が数百冊あり、相談交流担当教員が随時貸し出ししている。貸し出し件数は年間 150 件に上る。就職用参考書や問題集、TOEIC や TOEFL 等英語試験問題集、日本語能力試験問題集、その他各種日本語教科書とビデオなどである。

2) 地域交流活動

留学生自身の国際性の涵養と異文化理解を図ると共に、地域社会及び地域経済の国際化を支援するために、各種地域交流活動を展開している。それは、留学生センターには、地域の国際化を推進する核としての役割があるという認識による。

① 小中学校総合学習等支援のための留学生派遣

留学生が真に日本の文化社会を知るためには、地域交流団体が実施するパーティ等への参加による表層的な交流ではなく、留学生がより主体的に地域社会を支援する中で、それが可能になるという認識を持っている。さらに、人は、他人から与えられる喜びよりも、他人に何かをしてあげたという貢献による満足がより深いという認識もある。その満足の中から、地域社会へのより深い愛着が生まれ、知日派が育つと考えている。

以上のような考えから、下記のとおり各種活動に留学生を派遣している。

表 14 平成 15 年年度留学生派遣実績

	派遣時期	派遣先	派遣人数
1	4 月から 1 年間	丸岡町立高椋小の英語指導助手(毎週2時間)	1
2	4 月から 1 年間	丸岡町立高椋小の英語指導助手(毎週2時間)	1
3	4 月から 1 年間	丸岡町立高椋小の英語指導助手(毎週2時間)	1
4	4 月から 1 年間	丸岡町立武田小の英語指導助手(毎週2時間)	1
5	4 月から 1 年間	丸岡町立長畝小の英語指導助手(毎週2時間)	1
6	4 月から 1 年間	丸岡町立長畝小の英語指導助手(毎週2時間)	1

福井大学留学生センター紀要第1号（創刊号）

7	4月から1年間	丸岡町立磯部小の英語指導助手(毎週2時間)	1
8	4月から1年間	丸岡町立磯部小の英語指導助手(毎週2時間)	1
9	4月から1年間	丸岡町立平章小の英語指導助手(毎週2時間)	1
10	4月から1年間	丸岡町立鳴鹿小の英語指導助手(毎週2時間)	1
11	4月から1年間	丸岡町立高椋小及び丸岡中での外国子女日本語指導	1
12	4月から1年間	福井市旭小学校での英語指導助手	1
13	4月から1年間	福井市旭小学校での英語指導助手	1
14	5月から1年間	福井市立長橋小学校英語指導助手	1
15	4月から1年間	アイビーカレッジでの中国人学生生活指導週2回	1
16	4月18日	福井南郵便局での1日郵便外務員	1
17	5月から3か月	福井農林高等学校での留学生への生活指導と通訳	8
18	5月30日	福井市立円山小学校総合学習(自国紹介)	6
19	6月6日	福井市立円山小学校総合学習(歌、ゲーム)	6
20	6月27日	福井市立円山小学校総合学習(食について)	6
21	7月1日	福井市立円山小学校総合学習(食について)	1
22	7月4日	明道中学校異文化理解	5
23	7月5日	湊小学校(Minato International Day)	9
24	7月6日	丹生地区探検隊(観光資源発掘協力)	14
25	7月20日	福井葵祭り	3
26	8月2日	ヨサコイいっちょらい	6
27	8月16,17日	なるほどザワールド(美山町)	10
28	8月18日	つばき児童館	2
29	8月20日	大野市立小山小学校はローワールド	1
30	9月10日	福井市立大安寺小学校〔インドネシア料理〕ハローワールド	1
31	10月1日	福井県立科学技術高等学校(各国の食べ物と料理)	4
32	10月10日	足羽中学校(福井の生活)	3
33	10月16日	服間小学校(国際理解教育)ハローワールド	2
34	10月29日	朝日西小学校(国際理解教育、ごみ問題)ハローワールド	2
35	11月13日	日新小学校小学校5年生60名	8

相談交流活動部門

36	11月26日	敦賀南小学校 ワールドデー準備	1
37	12月11日	日新小学校小学校5年生 60名	8
38	1月9日	足羽高等学校(中国語会話体験学習)	3
39	1月12日	福井商工会議所 英語によるそろばん大会	1
40	1月25日	阿牛会による「本県在住外国人に対する交通安全のいろは」通訳	2
41	2月1日	福井九頭竜ライオンズクラブ「リサイ九竜」	9
42	2月10日	福井市啓蒙小学校 ハローワールド	2
43	2月12日	県立金津高校、イスラムの生活	2
44	2月20日	湊小学校(3年生、昔遊びの会を開こう(総合的な学習))	8
45	2月25日	かつやま子どもの村小学校(そめもの探検隊クラス)	1
46	3月3日	福井大学附属小学校(4年生)「私たちの福井県」の発表会への参加	5

表 15 平成 16 年度留学生派遣実績

1	4月から1年間	丸岡町立高椋小の英語指導助手(毎週2時間)	1
2	4月から1年間	丸岡町立長畝小の英語指導助手(毎週2時間)	1
3	4月から1年間	丸岡町立長畝小の英語指導助手(毎週3時間)	1
4	4月から1年間	丸岡町立磯部小の英語指導助手(毎週2時間)	1
5	4月から1年間	丸岡町立磯部小の英語指導助手(毎週3時間)	1
6	4月から1年間	丸岡町立平章小の英語指導助手(毎週2時間)	1
7	4月から1年間	福井市旭小学校での英語指導助手	1
8	4月から1年間	福井市生涯学習課職員対象中国語講座講師	1
9	4月から1年間	鯖江市生涯学習課中国語講座講師週3クラス	1
10	5月から1年間	福井市中藤小学校での英語指導助手	1
11	4月11,12日	福井商工会議所、中国要人通訳	1
12	4月27日	ナック・ケイ・エス(株)	1
13	4月12日～	前田工織(株)エンジニアへの英語教育講師(週1回)	1
14	5月8日	田植え体験(県農林水産部農畜産課)	13

福井大学留学生センター紀要第1号（創刊号）

15	5月13,14,15日	福井テニス協会	3
16	5月19日	啓蒙小学校ハローワールド	1
17	6月4日	福井市立円山小学校総合学習(自国紹介)	6
18	6月23日	福井市立円山小学校大型集会「世界をまるごと遊ぼう集会」	2
19	6月25日	福井大学附属小学校 英語の学習や、国際理解の学習	1
20	6月26日	福井県国際交流協会「留学生と県民のふれ合いバス旅行」	20
21	7月2日	社西小学校 国際理解教育(3年生)	1
22	7月3日	湊小学校(Minato International Day)	10
23	7月7日	勝山市立成器西小学校ハローワールド	6
24	7月13日	福井県民生活協同組合餃子講習会	1
25	7月24,25日	公文 English Immersion Camp Learders	6
26	8月11日	大野市小山小学校ハローワールド	3
27	8月21-25日	福井県日本中国友好協会日中友好自然体験キャンプ、中国杭州市第13中学校生23名	3
28	8月28日	福井県農林水産部農畜産課福井県稲刈り体験	13
29	8月31日	つばき児童館	2
30	9月9日	勝山市立荒土小学校6年生23人ハローワールド	3
31	9月24日	武生東小学校4年生児童62名	1
32	10月7日	啓蒙小学校4年生55名ハローワールド わたしたちにもできる国際協力	1
33	10月1-7日	福井県体育協会(韓国語通訳)	7
34	10月11日	大野市第9合唱グループ150名へのドイツ語発音指導	1
35	10月15日	FM福井「プサンの紹介と“韓流”について」	1
36	10月15&20日	社西小学校 国際理解教育(3年生)	1
37	10月26日	東十郷小学校長全校児童「英語等の外国語を使ったチャレンジランキング」	1
38	10月30日	UNESCO 祭 2004	8
39	10月31日	武生菊人形展 You(遊) club	5
40	11月3日	ふるさと味伝承講座(竹田公民館)	7

相談交流活動部門

41	11月4日	日新小学校5年 50名「外国の人の話を聞こう」	7
42	11月7日	福井交際フェスティバルインターナショナルカフェ(FIA)	1
43	11月12日	福井市立円山小学校総合学習(留学生の国調査発表会)	6
44	11月26日	敦賀南小学校「ワールドデー」	2
45	10月28日	福井県観光振興課韓国語通訳	8
46	12月2日	日新小学校5年 50名 「日本の文化を外国の人に伝えよう」	7
47	12月3日	足羽小学校総合的な学習 「友達の輪を世界に広げよう」6年生 65名	7
48	12月4日	奥越青少年の家小学生との交流会(パン焼き)	3
49	12月5日	福井九頭竜ライオンズクラブ YE 国際委員会「奉仕活動・自己修練・交流を通じ、いきいき青少年を！！」	10
50	12月8日	清明小学校ハローワールド	2
51	12月10日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.1	15
52	12月11日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.2	15
53	12月11日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.3	15
54	12月17日	福井市立円山小学校総合学習(日本文化発表会)	6
55	12月17日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.4	13
56	12月18日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.5	13
57	12月18日	福井中央ライオンズクラブ総会、家族クリスマスパーティ	15
58	1月10日	福井商工会議所 そろばん大会(英語による読み上げ算)	1
59	1月14日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.6	15
60	1月21日	福井商工会議所観光モニターツアー NO.7&懇談会	5
61	1月21日	東藤島小学校 ハローワールド	1
62	1月26日	永平寺中学校 Lunch Festival	1
63	1月29日	FBC/商工会議所「福井商工会議所リポート」17:45-17:55	2
64	2月14日	有終南小学校「広げよう、ふれ合いワールド」	6
65	2月19日	さつき児童館	1
66	3月6日	福井市国際交流協会「ふれあい交流会」	9
67	3月20日	福井中央ライオンズクラブ「Leo Forum in Fukui」	3

68	3月21日	福井南 RAC 『スマトラ沖地震・津波支援国際交流チャリティパーティ』	8
----	-------	-------------------------------------	---

② 留学生派遣の流れ

派遣1ヶ月以上前

各小中学校からの派遣要請受付



派遣1ヶ月前

派遣依頼概要書(A4 1頁)を交流担当教員に e-mail 送付



派遣依頼概要書の内容調整と確定



4週間前

派遣情報を全留学生に e-mail で一斉発信し、参加希望者募集



留学生⇔交流担当教員⇔派遣依頼小中学校で調整



派遣者確定及び派遣者名簿を小中学校へ送付



2週間前

小中学校長より学長宛派遣依頼書を正式送付



留学生課派遣稟議起案・決済→ 結果を当該指導教員連絡



留学生派遣

③ 派遣における問題点

留学生の本分は学習・研究等であるため、交流活動によってそれが阻害されてはならない。交流活動に熱中し過ぎて研究論文作成が疎かになっているという苦情を時折指導教員よりいただく。その意味で、募集においてはあくまで学生個々に直接依頼せず、一斉メールで募集し、派遣稟議決済後その写しを指導教員に回付することになっている。又、留学生は遠方の派遣先に自転車で向かうことが多いことから、事故等に備えて派遣先に一日傷害保険をかけるよう依頼徹底している。更に、派遣においては少額の謝金が支払われることがあるので、e-mail 配信募集時に謝金についての情報も掲載するようにしている。本学の大半を占める私費留学生の貴重な収入源にもなっている。

ただ、実験などに追われる留学生は交流活動に参加する余裕がなく、小学校等からの要請に沿う留学生を確保するのはなかなか難しい。従って、余り積極的な派遣活動を展開することは出来ず、そのバランスが大切である。

表 16 平成 15 年度通訳・翻訳及び語学講師派遣実績

1	5 月から 3 か月	福井農林高等学校交換留学生への生活指導とインドネシア語通訳	1
2	9 月 26 日, 27 日	残留孤児中国語通訳	1
3	10 月 6, 7, 8 日	キッツオ(株) ベンガル語通訳	1
4	11 月 16 日	福井県繊維協会商談会中国語通訳	1
5	11 月 17 日	福井県繊維協会商談会中国語通訳	2
6	11 月 18 日	福井県繊維協会商談会中国語通訳	5
7	11 月 25 日 3 週間毎日	ギャレックス(株)研修生日本語教育	3
8	1 月 1~4 月 3 ヶ月	福井信用金庫による中国語講座講師	1
9	1 月 25 日	阿牛会による「本県在住外国人に対する交通安全教育」通訳	2

④ 通訳・語学講師派遣

総合学習等いわゆる交流活動への派遣以外に、地域企業の経済活動支援のために通訳・翻訳、社員教育のための語学講師として留学生が活躍している。(表 16、17)

表 17 平成 16 年度派遣実績

4月から1年間	福井市生涯学習課職員対象中国語講座講師	1
4月から1年間	鯖江市生涯学習課中国語講座講師週3クラス 〔14人、13人、9人〕	1
4月11,12日	福井商工会議所、中国要人通訳	1
4月12日～	前田工織(株)エンジニア英語教育講師	
4月27日	ナック・ケイ・エス(株)韓国語通訳	1
5月13,14,15日	福井テニス協会韓国語通訳	1
10月1-7日	福井県体育協会韓国語通訳	7
10月14日	江守商事石塚(英語会話教育)	1
10月から長期	藤田光学中国語通訳	2
1月から長期	STCベンガル語通訳	1

⑤ 就職関連での経済界との交流

経済界の国際化支援、留学生の就職先確保という双方向の交流のために、商工会議所、ライオンズクラブ等との各種連携活動を展開している。平成 15 年度は丹生地区青年商工会議所の依頼を受けて、観光資源開発のためのモニター旅行「丹生地区探検隊ツアー」に 14 名を派遣し、観光客の視点から各種アンケートに応じた。他方、平成 16 年度は福井商工会議所の依頼を受けて、県内の観光資源開発のためのモニター旅行 6 コースに毎回 15 名、延べ 90 名を派遣すると同時に、観光開発をテーマに座談会を開き、テレビ番組作成にも協力した。また、ライオンズクラブの年次総会及び大会（クリスマスパーティ）には毎年 15 名の就職希望留学生を派遣し、地元経営者との交流を図っている。

⑥ 地域ボランティアグループとの交流

福井県内には日本語教育を中心としたボランティアグループが 13 団体あるが、その交流を図るために、福井国際交流協会主催で年 3 回ボランティアグループ連絡会議を開催している。そして、相談交流担当教員が平成 15 年まではその連絡会のまとめ役を担当していたが、平成 16 年からは日本語教育部門の桑原陽子助教授がその役を務めている。

⑦ スマトラ沖津波被災者支援活動

平成 16 年 12 月のスマトラ沖津波被災者支援のため、平成 17 年 1 月 16 日は福井駅前で、1 月 23 日は市内ベル百貨店でそれぞれ 38 名、42 名の参加を得て募金活動を行なった。インドネシア留学生会福井支部を中心とした留学生に、日本人学生及びロータリーアクトクラブの協力を得て、総額 100 万円以上の募金を集め、インドネシア留学生会福井支部長の Nasrullah 君（博士課程学生、アチェ州シア・クアラ大学講師）がアチェの被災地に赴き、直接支援活動を行なった。以上の活動は県内新聞各紙等で幅広く紹介された。また、本学は被災地復興支援を図るため、アチェ州シア・クアラ大学と学術交流協定を締結し、各種支援活動を開始した。

4 地域・国際交流ネットワーク構築と留学生同窓会活動

相談業務、交流活動業務等日々の活動を展開するためだけでなく、留学生センターが大学、地域社会、そして日本国全体の国際化を推進したり、国際社会に通用する人材育成を図ったりするためにも、総合的なネットワーク構築が欠かせない。つまり、留学生、日本人学生、教職員等学内ネットワーク、地域社会とのネットワーク、更には本学で学び帰国した友人達を中心とした国際社会とのネットワーク構築である。

① 福井大学留学生同窓会設立の背景

1970 年に第 1 号留学生 Lim Kim Teck 氏が工学部繊維染料学科に入学して以来、平成 16 年度までに本学で学んだ留学生総数は約 800 名で、内 600 名が帰国している。平成 12 年秋の本学ネットワーク誌「こころねっと」発刊にあたり、帰国留学生全員の住所ラベルを作成し、全員に「こころねっと」を送付した。その中に、「福井大学留学生同窓会登録用紙」（巻末資料参照）を同封したところ、多数の返信があった。そこで、「こころねっと」2002 年春号（平成 13 年）には帰国留学生からのメッセージを多数掲載し、同時に次の一文を巻頭に掲載した。

福井大学留学生同窓会発足について

留学生センターを軸としたコミュニケーション誌「こころねっと」の2001年11月の創刊を機に、福井大学留学生同窓会の発足、同窓会への参加を呼びかけた。

大学事務局の方で住所を把握している帰国留学生518名に「こころねっと」を送付し、それに福井大学留学生同窓会登録用紙（Fukui University Alumni Society Registration Form）を同封し、嬉しいことに2月末現在40名の帰国留学生の方から登録があった。福井大学、そして福井で過ごした懐かしい思い出や、現在の活躍のご様子、そして、同窓会発足への歓迎、激励等が寄せられた。

さて、同窓会発足といっても、具体的な規定や活動計画がある訳ではない。ただ自然に一步を踏み出しただけである。私たちは1人1人が幸せに暮らし、懐かしい思い出を持って死を迎えたいと思っているだろう。親、兄弟姉妹、子や孫、友人知人、同僚、地域の人々と助け合いながら生き、思い出は共有して初めて懐かしいものとなる。助け合いには心のこもった意思疎通（コミュニケーション）が欠かせない。

同窓会や「こころねっと」を軸として、在学留学生、帰国留学生、日本人学生、大学OBOG、教職員、地域社会、地域産業界、そして国際社会との相互コミュニケーションを促進すると同時に、「地域における科学技術の発展、及び社会経済文化の国際化への対応に、このネットワークがどんな役割を果たせるのか」も考えて行きたい。ここで言う地域社会は、留学生の故郷の地域社会を含む。帰国留学生の皆様は異文化環境での研究体験を通して、より広い視野で社会の発展形態を考えることが出来るだろうし、それぞれの社会で重要な役割を果たしている。

同窓会発足はそのような力の結集を目指すものであり、且つ帰国留学生相互の協力関係の構築も目指している。

（福井大学留学生センター 中島清）

その後も、「こころねっと」送付の度に、帰国留学生メッセージ掲載と登録用紙同封を続けて徐々に、住所、e-mail アドレス等の基礎資料を構築していった。

② 同窓会設立大会

第2回福井大学留学生国際シンポジウム開催に合わせ、その前々日、つまり平成15年11月30日に「第1回福井大学留学生同窓会大会」を実施した。大会にはシ

ンポジウムに招聘した帰国留学生 13 名、及び在学留学生計 91 名が参加し、下記の同窓会設立宣言を採択、署名し、劉丁会長以下事務局を選任した。

福井大学同窓会設立宣言文

本日 2003 年 11 月 30 日、第 1 回福井大学留学生同窓会大会に参加した、福井大学卒業留学生及び在学留学生有志は、国際交流の推進、卒業留学生及び在学留学生の相互支援、地域社会との交流、世界平和への貢献を目指し、ここに福井大学留学生同窓会の設立を高々に宣言する。

Declaration of Setting up of the University of Fukui Alumni Society

We, present and former overseas students of University of Fukui, at the 1st Convention of University of Fukui Alumni Society, today on November 30, 2003, declare proudly that we have established University of Fukui Alumni Society, with such purposes as promotion of international exchange, mutual support among present and former overseas students, development of exchange programs between overseas students and local communities, and contribution to the world peace.

③ 各国支部の設立

平成 16 年 12 月にはマレーシアクアラルンプールで開催された「日本留学フェア」に出席した山本富士夫留学生センター長臨席の下、「福井大学留学生同窓会マレーシア支部設立大会」が開催され、下記の宣言文の採択と事務局選出が行なわれた。そして、その 2 日後には同様に「福井大学留学生同窓会タイ支部設立大会」がバンコクで開催され、正式に発足した。また、2004 年 1 月にはスマトラ沖津波被災者支援活動の中で、在学中のインドネシア留学生を中心として、帰国留学生と連携しながら、インドネシア支部設立大会が開催され、インドネシア支部も設立された。今後は支部網の構築を推進する予定である。

December 11, 2004

Declaration of Establishment of

Malaysian Branch of the University of Fukui Alumni Society

We, former overseas students of University of Fukui, at the 1st meeting of Malaysian Branch of University of Fukui Alumni Society, today on December 11, 2004 at Cititel Mid Valley Kuala Lumpur, declare proudly that we have established Malaysian Branch of University of Fukui Alumni Society, with same spirit and purposes as described in the Declaration of Setting up of University of Fukui Alumni Society on November 30, 2003 at 1st Convention of University of Fukui Alumni Society in Fukui Japan.

④ ネットワーク誌「こころねっと」の発刊

平成13年に留学生センターの「ニュースレター」発刊を行なうことが決まったが、本学では当初から在学留学生による編集委員会を組織し、留学生による手作りの「ニュースレター」を目指し、編集の過程で、「ニュースレター」から「ネットワーク誌」へと編集方針を変えて行った。「こころねっと」は毎回3000部印刷し、学内学生教職員、県内全小中高校、交流関係団体・個人だけでなく、帰国及び在日留学生にも郵送配布している。その発送作業も在学留学生が行なっている。

⑤ 住所、e-mail アドレス等の情報網構築

現在、在学・帰国留学生の住所データを日々更新構築すると同時に、在学・帰国留学生計600名のe-mail網により、在学・帰国留学生と日々コミュニケーションを図っている。県内企業及び関係団体・個人とのネットワークは本学の国際交流活動のインフラとして貴重な資源となっている。

5 外部情報発信活動

留学生センターの情報発信媒体としては、「留学生センターホームページ <http://ryugaku.isc.fukui-u.ac.jp/>」、「こころねっとホームページ <http://anc.anc-d.fukui-u.ac.jp/kokoronet/>」、ネットワーク誌「こころねっと」、「センターニュース」などがある。また、JASSO機関誌「留学交流」にも随時投稿し、本学活動状況の発信を行なっている。